



## ～第3次ウッドショック、今後の展望～

2021年2月～4月現在にかけて、木材市場には第3次ウッドショックが起きています。

### 01 木材市場状況

海外から米松が入らない状況で、国産材も高騰している。ツーバイSPF材は以前の2倍の価格で㎡8万円以上との現場の声も出てきています。ロググレード材も高騰しています。

集成材は日本への輸入量が低下している。2021年2月の集成材輸入量は、前年同月比21%減の約6万㎡で、5カ月連続の減少となっています。EUからの輸入量は同25%減という状況となっています。在宅時間の増加によって都心の集合住宅から郊外の一戸建てへと移住する人が相次ぎ、住宅市場が好調に推移している。さらに、原産地・産出国では実質賃金が上がっていることも高騰の要因として挙げられている。

上記の複数要因が同時に発生していることで木材価格が高騰。世界中で需要が高まる一方で供給キャパの減少・SPFの製造減産等が重なり、需要増加に対応できない状況です。アメリカの旺盛な住宅需要、さらに中国の木材需要は続いており、木材の需給バランスが崩れつつある。

### 02 コンテナ問題発生中



中国の木材需要の増加と世界的なコンテナ不足。中国の木材需要については、アメリカ以上に今後の木材市場に大きな影響を及ぼすと考えられています。このコンテナ不足によってヨーロッパからの集成材が日本に入らない状況が表面化。コンテナ偏在による日本向け海上運賃の高止まりは当面解消されない、資材価格への影響も続く、という可能性が示唆されています。

全体的に見ても先行き不透明な状況であり出来るだけ先々起こり得る事象をシミュレーションし対策を整えていくことが必要になりそうです。

### 03 今後起こり得る事象

2021年度に着工される予定の住宅のうち全体の2～3割の住宅が建てられないのではないかとこの心配が出てきています。

リフォーム・リノベーションでも木材の影響が出ています。木材の価格が高騰する分、工事の売価設定にも影響が出てきますので事業会社は施工改革が最重要課題です。

木材だけでなく、設備関係も半導体不足による遅延が一部で発生している情報もありますので、注意して市況を見ておく必要があります。

皆様も既に対策に向けて動いている最中かと思いますが、対応と対策の両面が必要です。対応は現在の状況に対応することで、他の材で補うことが出来ないか、等の検討で既に進められていると思います。今後の対策は「材」以外の部分でも住宅着工契約やお取引先に向けての説明やお取引先会社が消費者に対して説明する際のサポート・支援等が求められることが予想されます。特に契約に関する問題は非常に大きな課題です。住宅が木材の状況で建てられないとしても、消費者が住宅購入またはリフォーム等を求める「需要」はコロナ禍であっても出てきます。

大手ハウスメーカーは、今回の木材高騰については住宅1棟当たりの木材価格として考え、着工のスピードを優先し、高くても購入する方向でほとんどが動いているようです。元々の粗利設定を考えれば当然かもしれません。

市況に左右されてしまうのは、物流の特性上致し方のない部分があります。いかにして、エンドユーザーに対応していくかが今後のポイントとなっていきます。

材料だけの話をしていると材料を持っている大手に流れていってしまいますので、マネージメント力を高めて、多少納期が遅くなるのが先に分かっている、待ってでも欲しくなるような付加価値提案が必要かもしれません。



## 04 木材市場状況・ポイント抜粋

- 世界的な建築需要の高まりによって木材価格が高騰している
- ヨーロッパの集成材の調達できない
- アメリカは内需の状況が良い
- コンテナが足りない、戻って来ていない
- 港湾職員がコロナの影響で人材不足、コンテナを下ろせない
- 大手ハウスメーカーは少しの値上がりとして捉え木材を高くても購入
- ローグレード材もホームセンターが別ルートで・・・？

## 05 今後の対策・ポイント抜粋

- 材料の手配については継続的に対応・対策が必要
- 住宅設備の方も同様にコロナの影響が一部出ているので情報収集が必要
- 住宅着工・リフォーム工事契約における納期のポイントを対策する
- 消費者・エンドユーザーへ木材市況を誰でも伝えられるようにする  
\* 上記、04木材市場状況・ポイントを社員が伝えられるようにする
- 御取引先には、営業力（訴求）・提案力（プラン）・販売力（契約）等新しい時代の事業展開に向けたサポートを強化する

### <追加ポイント>

マンションの内装工事と戸建住宅に使われる木材が大量に購入されている。材はあっても原産地の港湾職員の人材不足、予想外の注文が入ったりしている。港での整理状況は一部では長いと半年以上かかるという見通しも出ている。物流は生命に起因する飲食等が優先されているので、後回しになっているのではないかという意見も出ている。

住宅の契約については、先に納期に時間がかかることを伝えること、市場景気の状況を伝えて理解を得ることが重要です。契約の注意点については、弁護士事務所等に頼る形を取りましょう。納期が未定の場合は、納期確定後、契約成立の形を取らないと契約の取り方は十分に注意が必要です。

コンテナ不足の大きな要因が、中国がコンテナを買い集めていること。通常コンテナは荷物を積み込んだ状態で輸出され、帰りの便で別の荷物を運んでくる。中国では空のコンテナも高値で調達するケースもある。

コンテナ不足に直面したヨーロッパの集成材メーカーは陸路を利用して、ヨーロッパや中東へと集成材を輸出し始めている。

世界的な木造建築需要の高まりによって、ヨーロッパや中東でも木材需要が高まっていることが要因です。